

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376500324
法人名	有限会社 あおいの里
事業所名	グループホームあおいの里
訪問調査日	平成20年9月4日
評価確定日	平成20年9月27日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2376500324		
法人名	有限会社 あおいの里		
事業所名	グループホームあおいの里		
所在地 (電話番号)	愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字縫殿26番地132 (電話) 0533-72-2778		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年9月27日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤	7 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8, 3

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,530 円	その他の経費(月額)	13,020 円	
敷金	有( ) 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊橋元町病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表は県、町において各種福祉団体の指導的立場にあり、特に町においてはキャラバンメイト、社会福祉協議会監事、ボランティア協会幹事等の要職を務め、行政と協力して地域の介護福祉サービスの質の向上に多大な貢献をしている。今年度は町職員向けの認知症勉強会を町庁舎内で実施し、町職員の半数以上の参加を得た。また、ホームは地域になんの違和感もなく溶け込んでおり、積極的に地域に出て行く機会を設け、地域住民の認知症理解のために常に情報を発信している。利用者には「あおいの里が私の住家」との思いで最期まで安心して暮らしていけるように、重度化や看取りのケアについても医師・家族・職員との話し合いの機会を多く持つようになっているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では継続を期待する項目が6項目有ったものの、指摘事項は無く、特にこのホームでは地域との交流に重点を置いている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人代表、管理者、職員は外部評価、自己評価を実施する意義を理解している。今回の自己評価では、「評価ガイドブック」の勉強会を丸一日かけて行い、各項目ごとに職員に振り返り評価を実施してもらい、法人代表・管理者が職員の考え方を掌握して自己評価をまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町役場職員・包括支援センター職員・町老人クラブ会長・民生委員・利用者・利用者家族が出席し、2ヶ月毎に開催している。ホームからの経過報告に留まらず、幅広い立場の方の積極的な意見でサービスの向上に繋がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への安心の気づかいとして、毎月「あおいの里だより」を発行している。利用者の日常の様子や健康状態等を伝えるため、写真も添えて個々の家族に届けている。また、年2回(敬老会、新年会)家族が集まって食事をする会を開き、くつろいだ雰囲気の中で家族が気軽に思いを表出できる場作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員は、地域の高齢者の集い「ふれあいサロン」に毎月3人の利用者を連れて行っている。利用者がサロンで楽しんでる間、職員はサロンのスタッフ役を務め、共に地域の中に溶け込んでいる。法人代表は地域の介護福祉のリーダー的存在として活動している。中学生、高校生、一般を対象とした一日介護体験の受け入れも実施している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人達との交流を含め、今までの生活を継続し、地域の方々への発信等をねらいとして「その方がその方らしく、地域の中で普通に生活すること」を理念としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	より家庭的な雰囲気を追求をしているため、理念の周知には掲示に頼らず、月例会議や年2回の勉強会の際、理念の実践に向けての話し合いの中で共有・浸透を図っている。理念は具体的で解かりやすく、日常のケアに結び付け易い言葉で表現されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は、地域の高齢者の集い「ふれあいサロン」に毎月3人の利用者を連れて行っている。利用者がサロンで楽しんでいる間、職員はサロンのスタッフ役を務め、共に地域の中に溶け込んでいる。法人代表は地域の介護福祉のリーダー的存在として活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表、管理者、職員は外部評価、自己評価を実施する意義を理解している。今回の自己評価では「評価ガイドブック」の勉強会を丸一日かけて行い、各項目毎に職員に振り返り評価を実施してもらい、法人代表・管理者が職員の考えを掌握して自己評価をまとめた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町役場職員・包括支援センター職員・町老人クラブ会長・民生委員・利用者・家族・法人代表・管理者・職員等が出席し、2ヶ月毎に開催している。ホームからの経過報告に留まらず幅広い立場の方の積極的な意見で、サービス向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表は、キャラバンメイト、社会福祉協議会監事、ボランティア協会幹事等、町の福祉事業の要職を努め、行政と協力して地域の介護福祉サービスの質の向上に貢献している。又、今年度は町職員向けの認知症勉強会を町庁舎内で実施し、職員の半数が参加した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への安心の気づかいとして月に1回、利用者の日常の様子や健康状態などを写真を添えた便りとして、個々の家族に、「あおいの里だより」として届けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで家族が気軽に話せる雰囲気作りに努めている。また年に2回(敬老会、新年会)、家族が集まって食事をする会を開き、くつろいだ雰囲気家族が気軽に思いを表出できる場作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人代表は職員の異動が利用者には不安をもたらすことを充分理解し、極力異動が発生しないよう気配りをしている。やむをえず離職者があった場合には申し送りを徹底し、ダメージを最小限に抑えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は介護の経験年数や資格に応じて外部研修に参加している。職員ヒアリングから、それぞれの職員が介護の仕事に目標や希望を持っている事が窺い知れた。ホームでは月に1回の勉強会を実施し、日々のOJTと併せて、個々の職員のレベルアップを図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は愛知県認知症グループホーム連絡協議会、宝飯豊川介護保険事業者連絡会施設部会の役員としての活動を通してネットワーク作りや勉強会、相互訪問等に参加している。管理者、職員は外部研修で知り合った同業者との交流を通じ、情報交換などを行っている。		法人代表は町の指導者的な立場で各種介護団体との交流を深めているので、今後管理者・職員も他の事業所との交流の場に参加させ、自ホームの良い事には自信を持ち、交流先の良い事は取り入れて、更なる質の向上に取り組む事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者がホームに安心・納得した上で入居できるように施設見学、共用型通所介護のお試し利用を提供している。職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるように家族等と相談しながら対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として接すると共に、生活歴より、料理・裁縫・掃除・洗濯・花の手入れ等の活躍の場面を支援し、利用者から素直に学ぶ姿勢をとっている。訪問調査当日も、職員と一緒に玄関の花の手入れをする利用者の姿を見ることが出来た。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普通の生活での利用者、家族との係わりの中で、何気ない会話から出てくる想いを汲み取り、「みんなの声」として書きとめ生活支援に活かしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議には、管理者、計画作成担当者、介護スタッフ、本人、家族に出来るだけ参加してもらい、介護計画を作成している。利用者が一番良い支援を受けられるように、利用者の状況、状態、意向や家族の要望などに対して会議で話し合っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は短期目標2ヶ月、長期目標6ヶ月で定期的に見直しを実施している。体調の変化時においても必要な時には家族、関係者と連絡を取り合い、随時見直しを実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ショートステイ、デイサービスと事業所の多機能サービスの活用をはじめ、往診や通院等の医療支援を行っている。又、花見、買い物、100歳記念お泊り旅行等の外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の方針を家族と共に話し合い、主治医とも方針を共有している。方針に沿い経口的に栄養摂取が難しくなった利用者に味覚を残し、食への喜びが感じられるように胃ろうの造設を行った。看護師の負担が大きくなる事を覚悟の上で、重度化に対してホームとしての限界にチャレンジしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や個人対応に対して、さりげなく支援が行われており、利用者のプライバシーを損ねない配慮が見られた。個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、個人情報を利用する場合は、予め同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、「人は日々その日をどう過ごしたいか、その日の気分が変わることがある」ということを理解しており、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から食事への希望を聞きだし、外食の希望があれば職員が付き添って外食の支援をしている。利用者の「出来る事」に合わせて、職員と共に買い物や食事の準備、片付け等の役割分担をしている。職員も同じテーブルで、会話を楽しみながら食事をしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴時間は決めずに、朝から入浴の準備をし、一人ひとりの希望に沿って何時でも入浴出来る状態にして利用者の意志を尊重している。また、入浴を拒否する利用者には、さりげない誘導や足浴等を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その時その時の反応や表情等を常に観察し、言語以外からも利用者の想いをキャッチ出来るように努めている。訪問当日も、首にタオルをかけた利用者が、職員と一緒に玄関先の花壇の手入れをしている光景を見ることができた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って外出出来る様に「みんなの声」を活用している。買い物・散歩・外食・喫茶店・ドライブなど、一人ひとりに対応した外出支援をしている。日頃行けない場所(自分の家・自分の畑・思い出の場所)への外出支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため、夜8時～朝7時のみ施錠をしている。職員は身体拘束廃止勉強会で鍵をかけないケアの重要性を十分認識している。徘徊に対しても利用者をすぐに引き戻したりせず、一緒に話をしながら「何もなかったように」帰ってくる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者・職員ともに年に2回の避難訓練を実施し、うち1回は夜間を想定して実施した。地域住民への協力は具体的には要請はしていない。		夜間の災害発生時には近隣住民の協力が不可欠な要素と考えられる。協力の約束はいただいているものの、その連絡網が真に作動する確認のためにも、休日を利用する等して地域の方々も参加しての夜間想定訓練の実施を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が栄養学的に確認して栄養管理をし、摂取量は毎食摂取チェック表に記載している。食事中、職員は無理強いすることもなく、利用者自らの意思で摂取するような声かけをしていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・音楽・スタッフの声など、利用者の不安になる音の重複を避け、穏やかな雰囲気の中で生活が営まれている。玄関・リビング・食堂・廊下など、お洒落で家庭的な雰囲気を漂わせており、それぞれが好きな場所で和やかにくつろいでいる。利用者は、一日のほとんどを共有空間で過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなボード・机にホームで撮った写真を貼り、中央に配偶者の写真を貼っている人もいれば、和室の部屋に自宅と同じ畳の上敷きを敷いている人もいる。ベッドの正面に大きな壁掛け時計や箆笥等、利用者の大切なものが多く持ち込まれている居室もあった。		